第２章　基本目標Ⅱ：自然共生

みどりや生きものの豊かさを育み、人と自然がつながるまち



①　豊島区の現状

●生物多様性に関する豊島区の状況（資料 P.80）（用語解説 P.100・102）

▶緑被率の推移

令和６年度に行った緑被現況調査では、区内の緑被面積は 165.71ha で緑被率は 12.74％でした。

昭和 49 年からの推移では平成９年までは緑被全体が減少していましたが、平成 16 年以降は増加しています。開発時における緑化指導による新たな緑地整備や既存樹木が大きく育ったことが要因と考えられます。また、平成９年度調査までは 10㎡以上（水準Ⅱ）の緑被を調査対象としていましたが、平成 16 年からは 1㎡以上（水準Ⅰ）を対象とすることが可能となり、街路樹、住宅地の庭木、集合住宅や事業所の植え込みなどの小規模な緑被をカウントしていることも大きな要素のひとつです。令和元年から令和６年の推移では、緑被率は 13.23％⇒ 12.74％と若干減少しています。

項目			面積（ha）	構成比（％）
人工構造物被覆地以外			183.51	14.11
	緑被地		165.71	12.74
		樹木被覆地	141.15	10.85
		草地	18.64	1.43
		屋上緑化	5.92	0.45
	裸地		16.87	1.30
	水面		0.93	0.07
人工構造物被覆地			1,117.49	85.89
合計			1,301.00	100.00

出典：豊島区緑被現況調査

▶緑被率の計測方法について

緑被率とは、樹林・草地、農地、園地などの緑で覆われる土地の面積割合で自然度を表す指標の一つです。夏に撮影した空中写真などを測定データとして用いており、平面的な量の緑を把握するための指標です。（重層的な緑（植えたばかりの樹木等）の量を測定することは困難となります。）

② 施策の実施状況

● 生物多様性支援事業（資料 P.80）

生物多様性の普及啓発・保全に向けて、区内の自然環境を把握するモニタリング調査を実施し、収集した情報を多様な主体と共有する仕組みを構築します。

令和７年度は、区民参加型調査「としま生きものさがし」を行いました。また、南長崎はらっぱ公園内ビオトープの管理を引き続き区民団体と協働で行いました。さらに、区内小中学校のビオトープの生態調査も実施し、改善点と今後の維持管理の提案を行いました。



アズマヒキガエル
（池袋第三小学校）

≪評価・分析≫

南長崎はらっぱ公園内のビオトープでは、区民団体との連携によりアメリカザリガニの捕獲をしています。

アメリカザリガニは雑食性で、ビオトープ内の水草や生きものを食害するため捕獲しており、平成 29 年度からの累計は 2,881 匹となりました。その結果、平成 30 年度から引き続いてトンボ類の幼虫（ヤゴ）を確認することができており、継続した取組の効果があらわれています。

南長崎はらっぱ公園、清和小学校、池袋第三小学校、目白小学校それぞれのビオトープでは東京都のレッドリスト記載種であるアズマヒキガエルが確認され、小規模なビオトープであっても、生物の貴重な生息環境となっています。今後もこの状態が維持できるよう、水生植物の管理や外来生物が放流されないように注意喚起を継続して行うなどの提案をしました。

≪今後の取組≫

専門家による生物多様性モニタリング調査とこれまでの区民参加型調査の報告をもとに作成した、区内の生きものを紹介する「としま生きものガイドブック」の配布により、多くの区民の方々と区内の生きもの情報を共有していきます。

また、令和 8 年度は区立小学校 2 校と区有施設 1 施設のビオトープの生態調査を行い、区内の生物多様性を高める取組をしていきます。区内の数少ない水辺環境であるビオトープの生物多様性を高めることにより、生きものの生息地を確立することを目指します。（環境政策課　環境計画グループ）

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1　生物多様性を保全する

● としま生きものさがしの実施（資料 P.80）（用語解説 P.96）

自然や生きものへの関心を高めていただくために、区内にどのような生きものがいるのかを区民の方々自身が調べる「としま生きものさがし」を行いました。調査期間中（6月～ 10 月）に見つけた生きものを記録用紙に記入して報告していただきました。報告件数は、1,797 件。内訳は、チョウの仲間が最も多く 493 件、続いてトンボの仲間 236 件、セミの仲間 213 件と続きました。

区民の方々からいただいた情報は、ニュースレター発行の他、環境省の生きもの情報共有システム「いきものログ」を活用し、区内の生きものの情報を広く共有しています。



成果指標	基準値（R5年度）	目標値（R12年度）	目安値（R7年度）	実績（R7年度）	目安値の進捗状況
生きもの調査に参加する区民の数（累計）	1,195 人	2,000 人	1,425 人	1,466 人	

≪評価・分析≫

引き続き多くの区民の方々に参加いただくことが出来ました。令和 7 年度は、区立小学校や区立保育園、区内幼稚園への呼びかけを行いました。

また、小学校･保育園等、団体での参加も多く、151 人の方に参加いただきました。今後もイベント等における調査ガイドの配布や情報発信を行い、身近な生きものへの興味を広げていきます。

≪今後の取組≫

小学校や保育園等については、さらに本取組を活用していただけるよう、引き続き連携を呼びかけていきます。例年、報告件数の多い、区内でも多くのみどりを有する雑司ヶ谷霊園やイケ・サンパークとも連携し、幅広く情報発信を行っていきます。また、電子申請システムを利用し、二次元コードから気軽に提出できるようにするなど、参加しやすい仕組みづくりを行っていきます。（環境政策課　環境計画グループ）

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1　生物多様性を保全する

●みどりやビオトープの維持管理（資料 P.80）（用語解説 P.101）

区で取り組んできた緑化、学校・公園等において創出したみどり空間やビオトープを適切に維持管理し、生物多様性の保全を図っています。

小学校の改築に合わせて設置されたビオトープは、子ども達の学習・体験の場として活用されています。



清和小学校



目白小学校

また、地域住民等との連携による樹木やビオトープの維持管理を推進しています。令和７年度は、池袋本町電車の見える公園と南長崎はらっぱ公園で過去に植樹された「いのちの森」の手入れ活動を行いました。

実施場所	参加者数
池袋本町電車の見える公園	53 人
南長崎はらっぱ公園	35 人



池袋本町電車の見える公園の様子



南長崎はらっぱ公園の様子

取組指標	基準値（R5年度）	目標値（R12年度）	目安値（R7年度）	実績（R7年度）	目安値の進捗状況
学校･区立公園のビオトープ数（累計）	19か所	20か所	19か所	20か所	
地域が管理する公園・ビオトープの数	3か所	3か所	3か所	3か所	

≪評価・分析≫

区民をはじめとし、区に集う人々にとっての安らぎの場となるみどり空間を維持するとともに、自然への関心を深める学習や観察の場所としてはもちろん、保護者や地域の方々と子どもたちとのコミュニケーションの場となっています。

≪今後の取組≫

ビオトープについては、引き続き、学校の改築時に設置を進めます。また、みどりなどの保全は、今後も区民や地域との連携による維持管理を推進するとともに、協働による維持管理体制の構築を検討していきます。(環境政策課　環境計画グループ・事業グループ　公園緑地課　緑化推進グループ　学校施設課　学校施設整備グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1　生物多様性を保全する

Ⅱ-3　人と自然のつながりを深めるまちをつくる

●「豊島の森」を活用した講座

区庁舎 10 階屋上庭園「豊島の森」にはかつての豊島区の自然が再現されており、区の植生や生態など自然のしくみを学びながら憩える場となっています。この「豊島の森」で、豊島区の自然を学べる講座を春、冬の 2 回実施しています。

実施日	内容	参加者数
5 月 25 日	春の自然観察	24 名
2 月 8 日	冬の自然観察	26 名

講座の時だけでなく、日頃から校庭や公園など区内のいろいろな場所の植物や生きものに関心をもってもらえるよう、オリジナルの観察ノートを作成し、参加者に配布しています。

≪評価・分析≫

かつての豊島区にあった自然を知ると同時に、都会の中にも自然があることを学ぶことができる場となっています。

令和 7 年度は、全 2 回を実施しました。

≪今後の取組≫

引き続き、小学生を対象に実施します。(環境政策課　事業グループ)

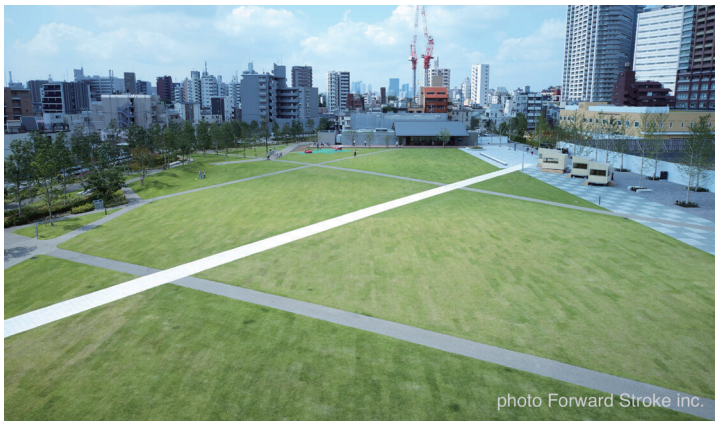
【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1　生物多様性を保全する

● 池袋駅周辺の公園整備

公園の整備により、人々の生活にやすらぎや潤いをもたらすみどり空間を創出しています。

令和２年12月にオープンした『としまみどりの防災公園（イケ・サンパーク）』は、災害時には区全体の防災拠点となる施設を備えている一方、防災施設を平時の賑わい創出イベントの際に利用するフェーズフリーの考えを取り入れた区内最大の公園です。また、本公園ではSDGsモデル事業として「イケ・サンパーク　ファーマーズマーケット」が開催されています。ファーマーズマーケットは、原則毎週末開催され（夏季休止期間あり）、埼玉県の新鮮な農産物をはじめ、区内の名産品、交流都市の特産物などが出店し、環境や食品ロス等に配慮した循環型のマーケットに取り組んでいます。



イケ・サンパーク

取組指標	基準値（R5年度）	目標値（R12年度）	目安値（R7年度）	実績（R7年度）	目安値の進捗状況
公園の整備面積（整備済面積）（累計）	23.6ha	25.4ha	24.1ha	23.7ha	

≪評価・分析≫

令和７年度は南長崎六丁目児童遊園を改修しましたが、実績値は目安値を下回る結果となりました。

≪今後の取組≫

令和８年度は、千早二丁目公園の改修、（仮称）高松三丁目公園・（仮称）池袋本町三丁目広場の新設を行うほか、令和９年度にわたり大塚台公園の改修をする予定です。（公園緑地課　公園整備グループ）

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-2　みどりを保全・創出する

③　その他の取組指標と成果指標

● 取組指標

取組指標	基準値 (R5年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R7年度)	実績 (R7年度)	目安値の 進捗状況
自然環境に触れる講座等の参加人数(累計)	96 人	730 人	277 人	359 人	
緑化計画書の届出件数	70 件	84 件	74 件	61 件	
緑化基準を満たす公共施設割合	81%	86%	82%	81%	
街路樹の設置割合 (設置済割合)	79%	87%	81%	79%	
協定花壇等の活動団体数	50 団体	68 団体	54 団体	75 団体	

● 成果指標

成果指標	基準値 (R5年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R7年度)	実績 (R7年度)	目安値の 進捗状況
緑被率	13.2%	13.3%	13.2%	12.7%	
みどり率	14.1%	14.3%	14.2%	13.6%	
緑視率が25%以上の箇所の割合	20.4%	25.2%	21.8%	20.6%	
みどりの協定数	50 団体	64 団体	54 団体	64 団体	
「多様な生きものが生息・生育できる環境づくりが進んでいる」と思う区民の割合	12.1%	17.4%	14.3%	11.9%	

≪評価・分析≫

「緑視率が 25%以上の箇所の割合」は基準値を上回り、増加傾向にあります。

その他の指標については、目安値に届かない項目もありますが、進捗状況は概ね良好です。

≪今後の取組≫

令和 8 年度も引き続き、緑化助成制度を広報・窓口等で宣伝し、区内の緑被率を上昇させていきます。

また、「緑化基準を満たす公共施設割合」については、緑化計画書のチェックを徹底し、成果指標を上昇させていきます。（公園緑地課　緑化推進グループ）